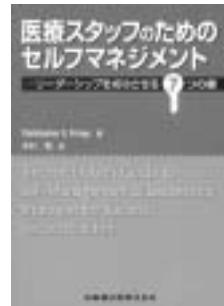


医療スタッフのためのセルフマネジメント —リーダーシップを成功させる7つの鍵

Christopher S. Frings 著, 木村 聰訳



医学部をはじめとする医療系学部での教員の能力向上を目的とした faculty development (FD) が花盛りである。教育に関する専門的な教育を受けていない教員が、教育論を含めた基本的な理論を学ぶのが目的である。この FD で一般的な題材として用いられているのが、ワークショップ形式で行うカリキュラムプランニングである。カリキュラムは単なる時間割・スケジュール表ではなく、授業計画書であることが最初に確認される。そして、重要なことの1つとして、主語は学習者であることが繰り返し強調される。教育とは「学習者に価値ある変化をもたらすプロセス」であり、価値ある変化を遂げるのは学習者である。教育は一種の自己啓発であり、カリキュラムには、社会あるいは学習者のニーズが反映された適切な目標が設定され、次にその目標を達成するために練られた方略、学習の成果を評価するステップが明示される必要がある。

今般、アラバマ大学病理学・臨床検査医学教授のフリンガス博士 (Christopher S. Frings) が、チーム医療でのリーダーとしての人間性を磨くためのマニュアル本を執筆した。本書は序章を含む全12章からなり、7つのステップが提唱され、それについての説明がなされている。すなわち、ステップ1：目標を紙に書き出し、バランスをとって実現させよ、2：目標への賢い到達計画を立て、粘れ、3：想定外の出来事を想定し、変革の達人となれ、4：過去の成功と失敗に学べ、5：賢く時間を使って、賢く働け、6：ストレスを管理せよ、7：毎日やることに磨きをかけよ、である。FD でのカリキュラムプランニングに似た内容に、さらに自己啓発的要素を多く取り入れた内容である。そして、最高のチームを作り上げるための管理者 (manager) あるいはリーダー (leader) のスキル (秘策) が列挙されている。本書をすべて読破し、それに忠実に従って行動する

なら、優れたリーダーとなることはそれほど困難ではないと確信できる内容である。

本書のもう1つの特徴は、各章に理解を深めるための先人の言葉がちりばめてあることである。体験を基にした貴重な先人の言葉はそれだけで重みがあり、1つ1つがより良い、理解しやすい道標 (みちしるべ) となっている。言外に多くの要素を含んでいる味わい深い言葉で、これを読むだけでも十分価値のあることである。

本書の訳者は木村 聰博士（昭和大学横浜市北部病院・臨床検査部長）である。木村博士は本邦では数少ない“真の臨床検査専門医”であり、文筆家としても知られている屋形 稔博士（新潟大学名誉教授）の直弟子である。師匠譲りの軽妙かつ的を得た言葉を操り、適切な味わいのある日本語訳としており、読者の胸に素直に沁みてくる。また、「訳者からの一言」は、臨床検査の現場の第一線で活躍している自身の経験に基づく言葉で語られており、一読に値する。

このように本書は、自己啓発のためにも、またチーム医療の優れたリーダーになるためにも、座右の書として多くの医療関係者ばかりでなく一般社会人にもお勧めしたい本である。そして、読破した後は実行に移すことの大切さを“If it is to be, it is up to me”（そうなるか、私次第である）の重い言葉で締めくくっている。

(昭和大学医学部教授 医学教育推進室 高木 康)
<A5判/176頁/定価2,310円(本体2,200円+税5%)/医歯薬出版/2009>